

建築教育ニュース

1978, 12

東日本建築教育研究会

## 目 次

1. 会長あいさつ .....	1
2. 昭和52年度、事業報告および会計（決算）..... 事務局 .....	2
3. 昭和53年度、事業計画および会計（予算）..... 事務局 .....	4
4. 神奈川県工業高等学校に於ける建築教育界の現況... 若 狭 一 男.....	6
5. 埼玉県工業教育研究会建築部会の動き .....	8
6. 建築科教材作成研究協議会報告 .....	9
7. 施工分科会報告 .....	10
8. 計画分科会報告 .....	12
9. 構造分科会報告 .....	15
10. ニュース .....	16

東日本建築教育研究会

東京都立葛西工業高等学校長 堀 重 雄

## 1. あいさつ

東日本建築教育研究会・会員の皆様、それぞれ処は別にしても、日頃建築教育にご健斗のことお喜び申し上げます。

さて、私こと、その任に非ざることを知りながら、前任高橋豊次校長先生のあとをうけ、本会の会長としての重責を負うことになりました。至らざることを憂いつつ、身に拍車をかけている次第です。

長らく、電気教育にたずさわっていた私は、畑ちがいの建築のこととて戸惑いつつ、果して皆さんの足手まといにならないかと懸念していましたが、幸にも、副会長森安先生、事務局長松本先生、その他理事、役員、その他の皆さんのご協力と自主的な活動によって、会も円滑に運営されていることをご報告し、ここに感謝の意を表します。

顧みますと、6月2日～3日の青森における総会・研究協議会をはじめ、8月18日～19日の東工大における講習会、さらに、各分科会での意欲的な研究等、それぞれ多大の成果をあげられたことご承知の通りです。

また、9月25日～26日、東京王子の中央工学校において催された全国工業教育大会には土木系と建築系を対象とし、貴重な発表と活発な意見が交わされ、本年は建築の年の感がありました。

ところで、今回、学習指導要領の改正にあたっては、職業高校サイドとしては、専門性の希薄化と普通科および技能教育への接近があげられるでしょう。特に、専門科目30単位と現行よりも5単位削減されたことは手痛く感ぜられます。

しかし、今日の多様な社会的要請にこたえることは、より大切なことと思われまふ。つまり、職場がきわめて多様化しただけでなく、たとえ、大学の職業教育を受けた専門性を活かすにも困難な実情があります。このような予盾の中で、知的学習に耐えられなくなった生徒が多くなってきました。当然、拱手傍観するわけにはいきません。学習意欲をどのように喚起するかが問題になってきました。そのために、従来、工業教育で最も得意とした実験・実習を通しての人間形成が見直されなければなりません。

このような観点から『能力・適性など多様化した生徒に適する教育課程を展開し、興味・関心および学習意欲をよびおこす指導』がこれまでに増して研究されなければならないでしょう。

本会でも、科目を中心とした製図、構造、計画、施工の部会のほかに教材委員会があり、適切な教材の選定や開発に特別の関心を寄せていられることを喜ぶものであります。この他、工業基礎、工業数理など建築科としてのアプローチのしかたも課題でしょう。いずれ、このニュースによって会員相互、意志の疎通をはかれれば幸と幸いです。終りに、このニュース発刊にご協力下された方々に厚くお礼を申し上げます。

## 2. 昭和52年度 事業報告

### 1. 総会・研究協議会

日時：昭和52年6月10日(金)～11日(土)

会場：「九段会館」(東京都千代田区九段南)

主議題：「産振施設設備基準の改訂実施について」  
「教育課程の改善について」

#### (1) 総会議事

ア) 昭和52年度事業報告及び会計報告

イ) 監査報告

ウ) 役員改選

エ) 昭和53年度事業計画案及び予算案審議

オ) その他

#### (2) 研究協議会(全体会)

議題

「産振施設設備基準の改訂について」

「教育課程の改善について」

#### (3) 研究協議会(分科会)

議題

製図分科会 「産振基準改正案の内容・教育課程改正について」

構造分科会 「建築構造設計の学習指導について」

計画分科会 「建築計画の学習指導について」

施工分科会 「建築施工の学習指導について」

講評 文部省教科調査官 開口 修先生

### 2. 講習会

日時：昭和52年8月20日(土)～21日(日)

場所：東京工業大学工学部附属工業高等学校建築科

内容：「透視図のかき方と着色実技」

### 3. 常任理事会、委員会

常任理事会：年6回開催

委員会：製図、構造、計画、施工の各分科会とも教材、教科指導法などにつき年  
5回～7回開催

### 4. 教材委員会

教育課程研究委員会：年1回開催

### 5. 工業標準テスト委員

会長 (葛西工) (墨田工) (東工大附工) (埼玉県)

### 6. 刊行物

建築ニュース1977(10月発行)

## 昭和52年度 会計決算報告

### 1. 歳入額 626,887円

項	目	予算額	決算額	差引残額	摘要
会費	1. 会費	345,000	345,000	3,000	3,000×116校
	2. 雑収入	12,000	12,768	768	助成金 利子
雑費	3. 印税	69,000	147,613	78,613	ワークブック, 基礎問題印税
	4. 賛助会補助	50,000	50,000	0	
繰越金	5. 繰越金	68,506	68,506	0	昭和51年度繰越金
計		544,506	626,887	82,381	

### 2. 歳出額 435,397円

項	目	予算額	決算額	差引残額	摘要
事業費	1. 総会費	140,000	85,937	56,063	会場校補助, 講師謝礼等
	2. 資料費	112,000	87,500	24,500	資料印刷(総会, 建築教育ニュース等)
	3. 講習会研究会補助費	60,000	36,500	23,500	透視図実技講習会
	4. 視察出張補助費	20,000	15,000	5,000	近畿工高建築連盟参加補助
	5. 分科会費	80,000	80,000	0	20,000×4分科会
運営費	6. 役員会費	14,000	12,450	1,550	会場費 茶菓代
	7. 交通通信費	80,000	84,504	-4,504	交通, 通信(郵券)
	8. 雑費	8,000	5,000	3,000	事務用品 用紙
予備費	9. 事務手当	10,000	10,000	0	事務手当
	10. 予備費	20,506	20,506	0	昭和53年度総会打合交通費
計		544,506	435,397	109,109	

3. 差引残額 626,887 - 435,397 = 191,490円

4. 次年度繰越額 191,490円

上記のとおり報告いたします。

昭和53年3月31日

会計 事務局 松本 延夫

監査の結果収支記帳等相違ないことを認めます。

昭和53年3月31日

会計監査 堀越 喜与志  
加藤 尚

### 3. 昭和53年度 事業計画

#### 1. 総会・研究協議会

日時：昭和53年6月2日(金)・3日(土)  
 会場：青森ニューグランドホテル(青森県青森市新町1-1-16)  
 主議題：「学習指導要領の改訂について」  
 「工業基礎の学習について：神奈川県立藤沢工業高等学校」  
 「建築科・科目の統合について：東京工業大学工学部附属工業高等学校」  
 研究協議会(分科会)

#### 議題

製図分科会「建築設計図の学習指導について」  
 構造分科会「建築構造設計の学習指導について」  
 計画分科会「建築計画の学習指導について」  
 施工分科会「建築施工の学習指導について」

#### 2. 講習会

日時：昭和53年8月18日(金)～19日(土)  
 場所：東京工業大学工学部附属工業高等学校建築科  
 内容：「建築教材作成」

#### 3. 常任理事会・委員会

常任理事会：年6回～8回開催予定  
 常任委員会：各分科会(製図、構造、計画、施工)とも必要に応じて開催予定(教材・教材・指導法などの研究)

#### 分科委員会(○印：主査)

製図部会	○五十嵐(東工大附工)	赤地(墨田工)	土田(田無工)
	片伯部(神奈川工)	徳永(鶴見工)	加藤(川崎市立工)
	岡田(川越工)	大仁田(市川工)	
構造部会	○井上(墨田工)	古賀(東工大附工)	堀越(小石川工)
	古谷(田無工)	松村(葛西工)	遠山(安田学園)
	藤井(神奈川工)	福馬(大宮工)	佐久間(市川工)
計画部会	○佐藤(小石川工)	中村(東工大附工)	高山(蔵前工)
	中村(小石川工)	和田(葛西工)	山県(神奈川工)
	本田(川越工)	大庭(小田原城北)	志村(蔵前工)
施工部会	○山室(神奈川工)	奥田(田無工)	高橋(葛西工)
	小野(東京工)	飯田(向の丘工)	佐藤(構須賀市立工)
	田島(大宮工)	大沢(熊谷工)	土屋(甲府工)
	小坂(峡南工)		
教材委員会	○五十嵐(東工大附工)	会長	副会長
	井上(墨田工)	堀越(小石川工)	高山(蔵前工)
	松本(葛西工)	宮島(安田学園)	白石(市川工)
	若狭(神奈川工)	加藤(川崎市立工)	岡田(川越工)
常任理事	会長	副会長	森安(田無工)
	高山(蔵前工)	佐藤(小石川工)	松本(葛西工)
	五十嵐(東工大附工)	古賀(東工大附工)	宮島(安田学園)
	小野(東京工)	白石(市川工)	関田(熊谷工)
	若狭(神奈川工)	山室(神奈川工)	徳永(鶴見工)
会計監査	堀越(小石川工)	加藤(川崎市立工)	

#### 4. 特別委員会

5. 工業標準テスト委員 会長 東工大附工、越生工、田無工、蔵前工

6. 刊行物 建築教育ニュース1978.10発行予定

## 昭和53年度 会計予算

### 1. 収入の部

項 目		予算額	摘 要
会 費	1. 会 費	345,000	3,000×115校 51年 124校 52年 116校
	2. 雑収入	12,000	助成金 10,000 利子等
雑 費	3. 印 税	95,000	ワークブック印税
	4. 賛助会補助	50,000	
繰越金	5. 繰 越 金	191,490	昭和52年度繰越金
計		693,490	

### 2. 支出の部

項 目		予算額	摘 要
事業費	1. 総 会 費	258,000	会場校補助100,000本部経費, 講師謝礼等
	2. 資 料 費	110,000	資料印刷(総会 建築教育ニュース等)
	3. 講習会補助	40,000	講 習 会
	4. 視察出張補助費	20,000	近畿工高建築連盟参加補助
	5. 分 科 会 費	80,000	20,000×4分科会
運営費	6. 役 員 会 費	14,000	会場費 茶菓代(6~8回)
	7. 交通・通信費	117,000	交通、通信費
	8. 雑 費	10,000	事務用品, 用紙代
予備費	9. 事 務 手 当	10,000	
	10. 予 備 費	34,490	予算外, 予算超過経費充当
計		693,490	

#### 4. 神奈川県工業高等学校に於ける建築教育界の現況

神奈川県高 若 狭 一 男

神奈川県内には、工業高校として県立14校、市立4校、私立6校の計24校が設置されている。この内建築科の設置されている学校は、県立5校、市立4校の計9校となっている。工業教育の研究団体としては、全県的には工業教育研究会があり、会は機械部会、電気部会、工業化学部会、建設工芸部会の4部会に別れていて、建築科はこの中の建設工芸部会の一部門として参加している。建設工芸部会の組織は建築科、土木科、設備工業科、産業デザイン科からの寄せ合い世帯である。従って部会そのものの運営に就いても仲々面倒で、色々の面で苦心を必要とする処である。

建設工芸部会の組織と運営に就いてやゝ詳細に延べてみたい。組織が上記の様に細かく別れているので各校各科から1名宛の幹事を選出して幹事会を作り、その上に部会長、副部会長各1名を置き他に会事務局を部会長処属校に置いて運営している。部会長は県内工業校長会の推せん幹事会の承認の元に候補とし、総会に計って決定する仕組みになっている。部会長は会の運営上、どうしても校長でないとい滑な運営がし難いし、事務局も会長校に置いて運営に支障のない様配慮している。

建設工芸部会の仕事としては、総会、幹事会等の他に秋には研修見学会、その他講演会等を挙行している。この他部内に教育課程委員会、視聴覚委員会等を設置し、新指導要領の研究や工業基礎等に就いても研究し、神奈川県教育委員会指導の此種の各研究に参加している。此他本部会では、各校各科から生徒製図作品5点宛を提出させて、これを各学校に巡回し、それぞれの学校に於いて展示会を行ない生徒職員等に対し建築教育への認識を深めさせる一助としている。尚此等の作品を学校外一市街に全場を求めて一般市民や中学生、その父兄等にも公開し、建築教育の内容に就いてのPRを行っている。此展示会の開催等に関しては新聞社、市町村公報等にも載せて頂く様その機関に連絡し宣伝を依頼している。この展示会は毎年開催地を変える。例えば横浜、川崎、小田原等の地区で開催することになっている。最近の工業高校教育の低調さが、一般社会人の高校教育への認識の低くさがその大きな原因の一つであろうと云ふ事を考えて、積極的に此催物を行って来ているのである。此行事は県内他教育研究部会では何れも行って居らず、又全国的にみても此種の行事を行っている処はないであろう。此点神奈川県建設工芸部会として自負している処である。

神奈川県に於ける中学校より的高校進学状況は、中卒者の約97%が進学している。しかもその多くが普通高校を志望している状況である。

県内に於ける工業高校建築科関係の進路傾向に就いて述べてみると（全日制県内7校に就いての調査）下記の通りである。

昭和53年度	就職希望者数	54.8%	昭和52年度卒業生進路一覽	
	進学希望者数	38.7%	官公庁公団公社等	6.2%
	自営者数	6.5%	専門業者（建設関係）	41.0%
			設計及びコンサルタント	0.8%
			その他（専門外）	12.0%
			自営	5.9%
			進学	34.1%



工業高校に入学してくる生徒の資質に就いては衆知の通りで、本県もお他聞に洩れない処である。この為工業高校側としても何とかこれを防ぎ度いと言ふ考えで、工業高校長会で、県教育委員会の指導の元に、中学校側に対する学校案内の冊子を作成し、中学校側に送付説明してPRを行って来た。一方建設工芸部会としても独自の立場でこの問題を取上げて、色々と話合いの結果、各科の勉強の様子や内容を漫画で書き、優しい文章で説明文を入れたポスターを作成し、県内各中学校側へ配布をしてPRを行った事もある。

最後に建設工芸部会の重要な仕事の一つとして県内建設業々界との意志の疏通を計り、緊密な連繫を取って工業教育の発展と相互理解を深めるために、神奈川県建設業協会と建設工芸部会との定期的懇談会を催している事である。それは毎年秋季、就職シーズンを目途して、協会側代表者、協会側労務委員長を中心として、正副会長、事務局専務理事、県内各支部長、各委員長等（何れも建設会社の社長）と、建設工芸部会の正副会長、事務局長、各校幹事と一堂に会し、忌憚のない意見を交換し合ふものである。この懇談会を持つ様になった発端は、前回の指導要領改定が行なわれた頃、7～8年前になるうか、その当時は業界も景気がよく工業高校卒業生を欲しがっていた時代であった。当時たまたま筆者教え子で建設会社の社長と会った事がある。その折会社側が人集めで大変な様に、高校の教育界でも今大変な事態が起りつつある点（教育課程の改変、卒業生の質の低下）を話した処、それでは一度機会を作るから学校教育の内容等に就いて業界の人達に話して欲しい、と言ふ事になり一夕若手社長連の会合に招ねかれて、お話をした事がきっかけとなり、前述の様な懇談会が持たれる様になった。懇談会では、業界側からは建設業界の現況、求人状況、入社後の状況等に就いて、学校側からは生徒の進路希望状況、教育界の状況等に就いてお互に資料を作り、それ等を印刷物として各参加者に配布の上、席上忌憚の無い意見の交換を行うのである。懇談会としては、この会以外にも各支部毎との懇談会を催す事もあり、数年前行はれた川崎支部との懇談会も盛況で実のある集りであった。我々学校側は兎角業界との連がりを回避する傾向があったが、話合ってみるとお互の側の様子を如何に知らなかったかと、しみじみ考えさせられるものがあった。

業界との相互理解は上記懇談会のみでなく、我々の側の教育事業を推進させる為にも強力な支援を頂く事ともなっている。

以上で神奈川県内で行なはれている建築教育界の現況の大略を記述したが、読者の皆様方に何等かの御参考になれば幸堪である。

## 5. 埼玉県工業教育研究会建築部会の動き

熊谷工 関田 毎吉

埼玉県には県立工高4校、私立高1校に建築科が置かれている。生徒数は5校の建築科で、1学年9クラス、計約1,100余名である。建築科職員は総勢38名で、埼玉の高校建築教育は我々38名の肩にかかっている。

埼玉県における工業教育研究会建築部会のここ3年ほどの建築部会の動きとその特徴にふれてみたい。

1つはこの3年間夏季休業中に一泊しての総会、研究協議会、見学会を実施しているが、30名を下った事はない。数年前から建築部会の中に若干の発案で委員会が設置されて、毎学期各校持廻りや委員会が持たれ、時には授業参観なども行いながら交流を深めている。

総会や研究協議会で発表や提起された問題：教科にかかわるものとして、建築設計製図1、計画3、実習2、インテリア関係1、施工1となっている。従来は、どの学校でも卒業設計を課して来たが、最近これをとりやめた学校もあり、突込んだ検討の必要が提起されている。代って、2級建築士試験の製図課題なども用い周到な準備ののち5時間程度で設計させるなどのところもなされている事が報告されている。

男女共修や計算尺や電卓、教育機器、郷土の建築の研究(川越の蔵造り)の紹介や、教育課程など身近で切実な課題が論議されている。

協議会のあとその地方にある古建築について見学会を行う事も行なわれ、県下の文化遺産にあらためて目をむけ日頃の教育教材に生かす事が出来有意義な企画だと思っている。

川越工の関田隆男氏は川越市の文化財委員として活躍しており、蔵造りなどの研究で、市の出版になる郷土誌の解説者として連筆をふるっている。

春日部工建築科は昨年、今年と文化祭に出組斗拱の4脚門などを校門に「建立」し、テレビなどにも紹介されるなどして注目をあびた。

熊谷工建築研究部の模型製作の伝統は長く、最近のものだけでも、姫路城、金閣寺、宇治平等院鳳凰堂、今年は薬師寺東塔を製作するなど、1年間休む事なく部活動が続けられ、年々低滞傾向の文化祭に活を入れている。最近県主催の発明、創意工夫展に高校の出品が増えつつあるが、熊工建築研究部の活動と出品が1つの引金になっていると思う。昨年今年と、鳳凰堂や東塔の模型が毎日、読売、埼玉新聞などに紹介されるなかで社寺建築に関心を持つ卒業生の父母から激励がよせられたり、全く見ず知らずの方から資料を提供したいという電話があったりして、我々の教育が学校の中だけでいつまでもとどまってよいだろうか、もっと外に目をむけた教育をと、考えさせられている。

大宮工業では2年がかりで法隆寺金堂、五重塔を製作し、昨年県の創意発明工夫展で教育長賞をうけており、次第に部活動や生産技術教育の観点から授業が展開されるようになってきている。

“石の上の三年”は模索の3年だったと思うが県下の建築教育にたずさわっている建築科教師達の得た親交を土台に新たな飛躍がのぞまれていると思う。

## 6. 建築科教材作成研究協議会報告

教材委員会主査 五十嵐 永吉

昭和53年8月18日(金), 19日(土) 両日に渡って上記表題で研究会を実施し, 無事終了した。昨年度の「透視図のかき方・着色方法」のあとをうけ教材作成, 特にOHPシートの作成, 建築模型の製作というテーマをかかげたが, 教材内容のしぼり方, 実技の実施方法, 講師の依頼など, いざ実施しようとするとも最初考えていた以上にいろいろ問題も生じ, 実施細目を決定するまでに時間もかかり, だいぶご迷惑をおかけした。

その1つは, 会場の件で最初昨年同様, 東工大附属工高の製図室を予定していたが, 講師末武先生のご希望もあって, 東工大小講堂を利用することになったことである。その教室は階段教室で定員144名, 冷房もきき, OHP関係の講義・実技に関しては研究室の器材・助手の方の応援等, まことに都合がよかったのであるが, 控室のないこと, 諸々の小道具等右から左というわけにいかず, 特に模型に関する実技では, 諸資材の搬入が不可能となり, この面では期待にそえなかったのではないかと深くおわび致します。

やはり実習を伴う研究会は, 講演と異なり, 細々とした道具が必要となるので今後考える必要があるようだ。ただ, 準備する側からいえば食堂が利用でき, その面での心配がなかったのは, 大変楽であったが,

その2は, 模型製作で当初, これについては最初から実技は時間的にも無理であり, いろいろの材料の紹介, その取扱いを中心に進めるべく, 伊東屋とも打合せをしていたのであるが, 最後にやはり会場のこともあって, 数多い材料の搬入が不可能となり, といってこれに替わるべきものも考えられず, 間際になって辞退され, その対策に苦慮した。

幸いにして光栄堂の岡本社長のご厚意により, たなおろしという社務にもかかわらず準備し, お引受け下され, 短時間のうちにいろいろとご準備いただき感謝に耐えない。多数の模型, スライドを用意され, 大変有意義な半日をご指導していただくことができた。

その3は, 宿泊の件で, 最初は昨年同様, 青山会館を利用していただく心づもりであったが, 申込みの段階で, 改築のため休館することを知り, 結局, 宿泊についてはご面倒をみることができず, 大変ご迷惑をおかけしたことと思います。また, そのために, 参加を断念された方もいたことと思います。深くおわび申し上げます。

参加者52名, 参加校39校, 北は青森県から南は福井県まで1都11県にわたり, 暑いなかを参加され, 終始ご熱心に研究された先生方, 本当にご苦労さまでした。係の不手際から, ご期待にそわなかったことも多々あったことと思いますが, これにこりず, 今後もご参加下さることをお願い致します。また, どのような研究会を希望するか, 皆様方からのご意見・希望をお寄せ下さることも心待ちして居りますので, 宜しくお願い致します。

## 日程・内容

第1日 8月18日(金)

1. 受付 9:00~9:30 資料 OHPの活用 28頁  
教育工学の考え方 31頁  
取扱い業者一覧表 56頁
2. 開会 9:30~10:00
  - 。あいさつ 会長 堀 重雄先生
  - 。日程説明 教材委員会主査
3. 実技演習 10:00~11:30 OHP, TPの製作, TP「木造の骨組」配布
4. 研究発表 11:30~12:00 透視図のできるまで(スライド) 蔵前工高  
高山先生  
発表者 諏佐先生
5. 昼食 12:00~13:00
6. 講義 13:00~16:30 OHPの活用 東工大教授 末武園弘先生

第2日 8月19日(土)

1. 受付 9:00~9:30
  2. 実技演習 9:30~12:00 模型材料並びにその使い方 光栄堂 岡本社長
  3. 閉会あいさつ 副会長 森安四郎先生
- 閉会后、教育工学開発センターを自由見学

## 7. 施工分科会報告

神奈川工業高校 山室 滋

分科会の委員会は、前年度のテーマ「建築施工の学習指導について」の資料の提供を終えて一段落し、気をゆるめて活動から離れているところ、建築教育ニュースの時期を迎え、あわてた次第です。今回の報告は、総会・分科会(資料No15)会場で会員からの貴重な御意見と御要望を改めて委員会で拝聴し、この中から施工分科会活動の指針を得ました。

この検討内容を報告します。

### (1) 分科会で得たもの

会場では資料に沿った施工方法などの御意見がありましたが、とくに安全教育は施工分科会で取り組む内容ではないか、という御意見を戴きました。

委員会では、今までの期間、施工実習、研究協議会の開催や、建築施工の学習指導について、など、実習と施工の両面から教科書を通して検討して参りました。安全教育は建築生産の現場

だけでなく教育の場からも見過ごしにできないもので、前向きに吸収して教育の現場に反映すべきものと考えます。

施工委員会では、安全教育について研究・討議し、学校教育で取り上げる内容を精選・整理し、会員に提供して意見の交換を計りながら一歩、一歩教育活動の中に融合して行くことにいたしました。

## (2) 安全教育をテーマにして

我々が施工実習、建築施工の授業を展開する時、災害を防止し、安全に実施するというように、抽象的な表現で過ごしている場合が多いと思われる。

これらは、教師が学校というわくの中で現実から離れた作業・管理が行なえるからで、建築生産の場では労働基準法、労働安全衛生法、労働安全衛生規則などの最低の基準を理解し職場（現場）の事故防止に努めている。

また、労働衛生法施行令では、別表のように作業区分によって、その資格を有する者に作業主任者の選任や、玉掛けなどの業務の区分によって就業の制限の規定がある。

学校では生徒に将来学窓を巣立って現場員として活躍する素質を養うためには、先づ、教師自らが建築生産の現実の空気にふれることが大切ではないだろうか。

そこで、委員会では安全教育を身近かな内容のものから取り上げて検討・整理し、例年8月に行う講習会に組み入れて会員の皆さんに資格取得の道を開くように計画を進めて居るところです。

講習会で得た知識・技量と資格講習会の実施要領を各学校に持ち帰って、生徒のための講習会を推し進めるようにしてはどうだろうか。

或る委員校では、昔、労働基準監督署から講師を招いて講習会を催し資格を取得させたことがあって、就職後現場作業でこの資格が大いに役立ったとの事例があります。

これからの社会機構の中で生徒が生き抜くには、建築士の資格と併せて、作業主任者の資格を取得できるように計らい、導くことが最適と考える。

委員会では12月ごろまでに安全教育の原案をまとめ、本部理事会に計って54年8月の講習会実施の可否を決定するところです。

お願い： 施工に関する事項で御希望・御意見を分科会宛お寄せ下さい。交流することは会の発展・親睦につながる事と考えます。

## 作業主任者を選任すべき作業一覧表

◎ 作業の区分	◎ 資格を有する者	◎ 名称	◎ 条文
1.アセチレン溶接装置またはガス集合溶接装置を用いるガス溶接等の作業	ガス溶接作業主任者免許を受けた者	ガス溶接作業主任者	安衛令6-2

○作業の区分	○資格を有する者	○名称	○条文
2.掘削面の高さが2メートル以上となる地山の掘削の作業（ずい道およびたて坑以外の坑の掘削を除く）	地山の掘削作業主任者技能講習を修了した者	地山の掘削作業主任者	安衛令6-9
3.土止め支保工の切りばりまたは覆おこしの取付けまたは取りはずしの作業	土止め支保工作業主任者技能講習を修了した者	土止め支保工作業主任者	安衛令6-10
4.掘削面の高さが2メートル以上となる岩石採取のための掘削の作業	採石のための掘削作業主任者技能講習を修了した者	採石のための掘削作業主任者	安衛令6-11
5.高さが2メートル以上のはいつけまたは、はいくずしの作業	はい作業主任者技能講習を修了した者	はい作業主任者	安衛令6-12
6.型わく支保工の組立てまたは解体の作業	型わく支保工の組等作業主任者技能講習を修了した者	型わく支保工の組立て等作業主任者	安衛令6-145
7.つり足場、張出し足場または高さ5メートル以上の構造の足場の組立て解体または変更の作業（ゴンドラのつり足場を除く）	足場の組立て等作業主任者技能講習を修了した者	足場の組立て等作業主任者	安衛令6-1
8.第一種圧力容器の取扱いの作業（小型圧力容器および小規模容器を除く）	特級ボイラー-技士免許、一級ボイラー-技士免許もしくは二級ボイラー-技士免許を受けた者または第一種圧力容器取扱作業主任者技能講習を修了した者	第一種圧力容器取扱作業主任者	安衛令6-17

## 8. 計画分科会報告

—分科会活動概要—

都立小石川工高 佐藤賢吉

今回は建築教育ニュース1977・10号以降の主な活動状況について報告します。

◎ 委員会

昭和52年10月20日

## 協議事項

① 東日本建築教育研究会全体会の経過報告。

② 教育課程について。

(学習指導要領の改訂にともなう問題点等。)

③ 昭和53年度総会・研究協議会の件。

④ 行軍計画について。

1) 見学会、講演会実施に関する打合せ。

※ 見学会開催案内を茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、神奈川、東京の45校発送  
講演会開催案内を上記見学会案内校に山梨、静岡を加え50校に発送。

## ◎ 見学会実施

〈日時〉：昭和52年12月14日 P.M 14:00～16:00

〈場所〉：新宿野村ビル新築工事現場

新宿区新宿1-26-2 (新宿新都心)

〈参加者数〉：22名(20校)

この見学会では、(株)安井建築設計事務所、(株)熊谷組のご厚意により、特に超高層建築における建築計画の概要および、設備の特徴などについて詳細な説明をいただくことができ大変有意義でした。なお、工事現場が一部仕上工程に入っていた関係で見学者受入れ数に制限があって希望者を各校1名に調整させていただきました。(申込希望者60名)

〈建築概要〉 建築主 野村不動産株式会社

建設顧問 東大名誉教授 高山英華

設計・監督 株式会社安井建築設計事務所

施工 株式会社熊谷組

○地区・地域：商業地域，防火地域，容積1000%地区

○用途：事務室，一部レストラン・店舗

○敷地面積：9,298.21 $m^2$ (2,813坪)

○建築面積：1,977.63 $m^2$ (598坪)

○延床面積：11,908.47 $m^2$ (3,602.3坪)

○地上部 8,523.86 $m^2$ (2,578.5坪)

○地下部 3,290.78 $m^2$ (9,95.4坪)

○地下公共通路 938.25 $m^2$ (284坪)

○基準階床面積：1,645.04 $m^2$ (498坪)

○階数：地下5階，地上50階，塔屋3階

○軒高：203.25m(TP+39.3より)

○最高高さ：209.90m( # )

○根切深さ：27,70m (TP+39,3より)

○駝車台数：330台

◎ 講演会開催

〈日時〉：昭和53年1月20日 P.M 15:00~17:00

〈会場〉：東京工業大学附属工業高等学校建築科教室

題：現代ヨーロッパ建築講演

(アムステルダムの近代建築)

講師：日本大学生産工学部教授

工博 山口 広先生

参加者：30名

講演はアライドを併用しながらアムステルダムでの先生の滞在生活における建築家としてのものの見方ともいべきユニークな解説の中に貴重な「建築」の心なるものが教えられました。講演の後、先生の多忙なスケジュールをご無理頂き、約2時間ほど懇談の席を設けて時間の流れを忘れるまま、有意義に閉会した。誌面をかりて、山口先生にお礼申し上げます。

※ 参考までに『住宅有情』— 11 — 煉瓦 文・山口 広

(朝日新聞53年8月31日付)

を紹介しておきます。

◎ 委員会連絡

昭和53年3月1日 計画部会各委員に研究協議会(計画分科会)の協議題に関する件の文書発送

◎ 委員会

昭和53年5月8日 P.M 14:00~16:30 於：小石川工

協議事項

- ① 建築計画の学習指導について
- ② 学習指導要領の改訂………科目の統合による「建築計画」の領域について
- ③ その他、新しい授業の展開をどうすすめるべきか。

◎ 総会・研究協議会

日時：昭和53年6月2日

会場：青森ニューグランドホテル

分科会参加者数：30名

分科会協議題：建築計画の学習指導について

〈指導計画・領域〉

— 協議内容の概略 —

各学校の実践報告を中心に活発な協議が行なわれた。





考慮して欲しいとのことです。また、標準テストを実施していない学校は1校のみとのことです。また、入学者の質はどの位いかとの質問がでしたが、各地でバラバラですが、東京、神奈川あたりで偏差値が42.3～48位、群馬では400点中220～270ぐらいとのことです。不静定構造の取扱いでは、選択制をとっている学校が7校でした。

科目が統合されたら、うまくいくか、1つの科目を数人で分担することになるのではないかと、また、現在の構造設計では、鉄筋コンクリート造を先に扱っている学校の方がやや多いようです。また、1年の建築構造では木造のみの学校が大多数であった。それから、単純ばりと片持ばりの扱いは、教科書通りに大部分の学校がやっていた。

また、副教材を用いている学校は7校であった。それから担当教科の持ち方について、ローテーションでやっているのが10校、教科で固定しているのが8校であった。

また、いつも問題になることであるが、教える範囲として、静定まででよいかということが出たが、将来そうなっていくのではないかと？

選択の問題点はどうしても片寄りが生ずるとのことであった。選択をやっていない学校が1校あった。

必要単位と内容の標準を作って欲しい、すなわち、ミニマムエッセンスを検討すべきでないかということですが、そのことについて、各学校にアンケートを依頼し、本部で取りまとめましたので、機会があったら、お知らせしたいと思っております。

尚、専攻科について現在設置している所を教えて欲しいとの質問がでしたが、現在、東工大附属、沼津、前橋、仙台第二、安田学園、昭和第一工高が実施しているところです。

尚、鋼材倶楽部より当日の参加者にガイドブックを配布しましたので参考にして下さい。

今年度は、小委員会を2月に1回位開き、分科会をより活潑なものにしたいと思っておりますので、御意見、御希望がありましたら、墨工井上宛御連絡下さい。

## ニュース

### 1. 昭和54年度総会，研究協議会について

昭和54年6月8日，9日，栃木県で開催される予定です。

昭和55年度は，北海道で開催が予定されています。

### 2. 昭和54年度，講習会について

上記については，例年通り，8月中に開催予定です。テーマは検討中ですが，それらについての御意見・御希望などをお願い致します。

## あとがき

今回から，各県での研究会の活動をお知らせ致したいと思い，急概，神奈川県と埼玉県にお願いしました。今迄とも宜しくお願い致します。

編集の不手際で，本ニュース大幅に遅れましたこと深くお詫び申し上げます。

最後になりましたが，御多忙の折，御寄稿をいただきました先生方に厚くお礼を申上ます。

昭和53年12月

編集事務局

都立田無工業高校

都立小石川工業高校